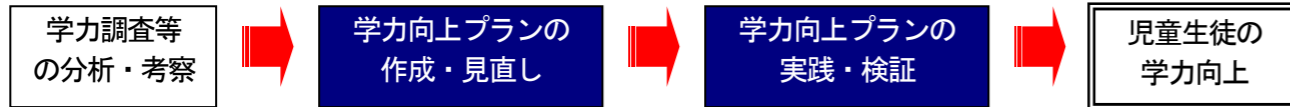


# 学力向上プラン実践のポイント ～H22各校の学力向上プランから～

小松市教育委員会学校教育課（平成23年1月作成）

## ◆学力向上プランを 着実な学力向上へ



### ①重点化

プランに掲げられた内容は、学力調査等から得られた分析結果をもとに、優先性を考えたり、学年に応じて内容や方法を変えたりするなど、実態に即して重点化を図ることが大切です。

### ②具体化

「学校ぐるみ」で学力向上を図るためには、全教職員で課題を共有し、方向性を共通理解することが大切です。そのために、何を、いつ、どのようにするのかを具体的に共有する場が必要です。

### ③活用・検証

系統表や手引き、掲示物等、作成した資料は、活用してこそ効果が発揮されます。使い方も校内で十分に検討することが必要です。また、プランの内容も検証しながら実践を進めることが大切です。

## ◆各校の学力向上プランから

各学校からいただいた「平成22年度学力向上プラン修正版」をもとに、小松市学力向上アプローチにある5つの視点で下記のようにまとめてみました。それぞれの学校の学力向上の取組の参考にさせていただきたいと思っております。

### 1 学習内容を確実に定着させる授業づくり

【各校のプランから】

ねらいの明確化や課題設定・板書・発問の工夫、ノート指導の充実等、授業改善の視点を明確にし、校内で共通理解して授業研究に取り組む学校が大変多くなっています。他にも定着・習熟を図る時間の確保や振り返り活動の重視など、学びを確認する場の設定も多く挙げられています。

実践例

- 授業で学んだ学習用語を黒板横に「ことばの宝箱」として掲示する。
- 全学級で「学びのルール」や「学習活動の流れ」を掲示し、児童生徒に意識させる。
- 帯タイムで「短作文づくり」を全校で、「中心文・キーワードを見つける練習」を3年生以上で行う。
- 毎週〇曜日に全校一斉の「100ます計算チャレンジタイム」を実施する。
- 学力調査で正答率の低い学習事項を教職員で共通理解し、他教科や他学年の中でも意識して指導する。
- 定着度をはかる独自の検定やテストを実施する。(例 独自の漢字検定「よみの達人」、百人一首)
- 辞典、そろばん、地図帳等を学年ごとに重点化し、授業の中で活用する。
- 児童が意欲的にノートづくりを行うための「ノート検定」を実施する。
- 生徒による授業アンケートを実施する。(中学校)
- 終礼時にドリル学習をする。(中学校)

### 2 思考力・判断力・表現力等の育成

【各校のプランから】

各教科のねらいに沿って「話す・聞く」や「書く」活動を意図的に設定したり、交流による学び合いの場面を取り入れたり、そのために単元計画を工夫したりするなど、言語活動を効果的に取り入れる取組が多く見られます。また、これまでの集会や朝の会等での発表や交流活動を見直し、工夫を加えている学校もあります。

実践例

- 「書くこと」の重点月間を設定し、全校で取り組む。
- 目指す授業像を「揺さぶり、導き、考えさせる」とキーワードにし、追究意欲を引き出す授業を全教職員で行う。
- 「表現力育成」のための年間計画を作成し、教育活動の中で発表の機会を計画的に設ける。
- 全校集会での朗読や群読発表において、自分の感想や意見を発表する場を設ける。
- 言語活動例を教科ごとに表にまとめ、互いに学び合う場を計画的に組み込む。
- 学期に1つ単元を決めて「解き方や考え方がわかるノート指導」を集中的に行う。
- 児童が他のクラスの学び合いの授業を見たり、自分のクラスの授業記録を児童に見せ、振り返らせたりする。
- 定期テストの問題を教科部会で検討し、記述問題や活用問題を出題する。(中学校)
- 少人数で話し合う場面を全教科・領域で取り入れていく。(中学校)
- ディベート、レポート作成、プレゼンテーション等の機会を授業や生徒会活動の中に取り入れていく。(中学校)

### 3 主体的な家庭学習の実現

【各校のプランから】

「家庭学習の手引き」を作成する学校が多くなりました。また、自学ノートの取り組みも広がっています。それらの取組の中で、手引きの内容や活用方法を見直し、改善を図っている学校や、より積極的な自主学習に向けた指導の工夫・改善が多く見られています。

実践例

- 一部の学年ではなく、全学年(小1～小6)で自学ノートに取り組む。
- 自学ノートの内容項目・内容カードを用意し、指導に活用する。
- 「家庭学習習慣化ウイーク」「パワーアップ週間」等を設定し、目標をもたせて取り組む。
- 生活習慣チェックを実施し、毎月振り返りをする。同時に保護者にも一言書いてもらう。
- 学習ノートを保護者に見てもらおうようにし、よさや伸びを認めてもらい一言書いてもらう。
- 小中連携として、中学校下で共通の「学習の手引き」を作成し、小学6年に配付した。
- 「テレビなしデー」「ノーゲームデー」をPTAと連携して設定する。
- 学校研究だよりを家庭に配信する。
- 各教科でシラバスを単元ごとに作成・配付し、学習の見通しをもたせる。(中学校)
- 学級活動で望ましい家庭学習について全クラスで指導する。(中学校)

### 4 学び合いができる学級づくり

【各校のプランから】

互いに話しやすい雰囲気づくりを大切にするため、授業や終礼時に「互いを認め合う時間」の確保や学習規律を児童生徒と話し合い、共通理解する取組が多くなっています。また、望ましい「話し方・聴き方」のポイントを設定し、掲示する学校もあります。人間関係づくりのためのソーシャルスキル学習では、アンケート調査等を活用し、実態に応じてなされるなど各校の工夫が見られています。

実践例

- 学校独自の形式で学級経営案を作成する。それをもとに定期的に見直しを行う。
- 学級目標や目指す授業像について児童と話し合い、意識の向上を図る。
- 「目指す授業の姿」を各学級で教室掲示する。
- 学期はじめに学習規律について教職員が共通理解する。
- 学期ごとに学校生活を評価するアンケートを実施し、改善項目を絞り込み、子どもと同じ課題意識で取り組む。
- 相談週間(〇〇週間)を設け、学級全員の児童と個人面談をし、児童理解を図る。
- 道徳新聞の作成・掲示、道徳の校内研修会を実施するなど、全校で道徳の時間の充実を図る。

### 5 学校ぐるみで取り組む体制づくり

【各校のプランから】

学校全体で取り組むには、組織づくりや共通理解の場の設定が大切です。今回の見直しで、その方法や内容について修正を図った学校がいくつもありました。学力調査で得られた課題を今後にかすすためにも、全学年による学校ぐるみの取組を今後ともお願いします。

実践例

- 学力調査の分析結果や今後の指導のポイントを全員で確認し、各学年の各教科で重点指導単元を設定する。
- 学力調査を全教職員で解答・採点・分析する。
- 正答率が低かった問題に対し、各学年で対策を考え、共通理解する。
- 市教委「学力向上アプローチ」を全員で読み、取組の補充を図る。
- 学力向上委員会を設置し、学期当初に課題を全員で共通理解する。
- 学校生活アンケートをもとに、主任会議で改善策を提案し、全体で実践する。
- 学校評価の中で、学力調査結果をもとに具体的な目標を設定する。

平成22年度小松市学力向上プラン目指す児童生徒像

**自ら考え表現し、学びを深め合う小松っ子**

